

すばらしい江戸時代の文化かおる鳴尾再発見

鳴尾村づくり

武庫女と鳴尾をつなぐ地域情報誌

見本号

平成19年2月15日

武庫女と鳴尾を結ぶ地域情報誌 (見本) がスタート

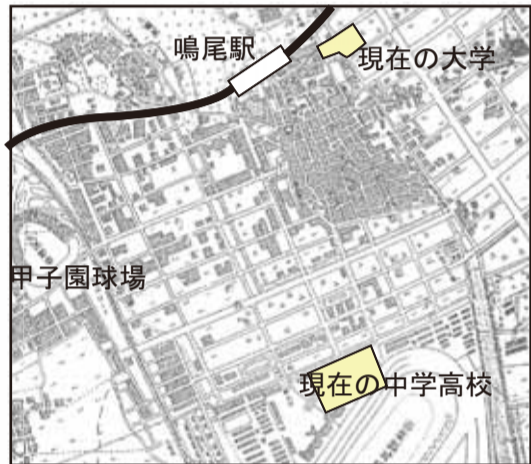
わたしたちの町・鳴尾は、江戸時代からの風情の残る歴史的地区となっている。昭和二十四年に西宮市との市町村合併が行われたが、村の時代の地域資源が多く眠っている。武庫女大の編集チームは、学び舎の足元を見つめなおすことで、わが町再発見を目指す。またそれらの情報を鳴尾の方々にも楽しんでいただくことで、紙面を通して鳴尾市民と武庫女の中学生、高校生、大学生との交流ができればと願っている。地域の方々に指導をいただきながら、鳴尾のまちづくりを勉強し考えていきたい。そのきっかけに、本誌をこの春から発行したい。



イチゴジャムと

江戸時代のような町並み

「いちご畑」の話は武庫川女子大のOGの方々から聞かせていただくことが多い。武庫女ができた当時は、学校周辺はいちご畑だったようだ。そして、そのイチゴを使ったジャムも名産で鳴尾村には多くのジャム工房があったらしい。そうしたのどかな風景とは対照的に、鳴尾の村のなかには、江戸時代に栄えた地区らしく立派な建築が並ぶ江戸時代の建物はもうないが、十九世紀末の建築物がまだ多く残されている。本誌では、そうした建築や歴史文化を紹介していきたい。



昭和9年の鳴尾村と周辺地図

旧大道筋にカフェ続々誕生

かつて、大道筋と呼ばれ栄えた通りに昨年からカフェが2店誕生した。武庫川女子大生の人の流れが代わるだろうか。この通りは、近年変化が起きている。それは、大学の変化に理由がある。南門から学生の出入りが自由になることで、一時、学生の往来がなくなっていたこの通りに元気がでてきた。今後が楽しみだ。本誌では、この通りを通称『からす通り』と呼んでいる。語源は、かつて武庫川女子大生が毎日着用していた制服に由来している。またいつか、昔の鳴尾村のメインストリートの一つに学生で華やぐことを願った思いがこめられている。



鳴尾村の昔の道路名称

瓶、洗ってます。

三箇鉢泉所

三箇鉢泉所では現在、使用後の酒瓶(ワンカップ、小瓶など180×300mmの小さい瓶)の洗浄を専門に行っています。きれいに洗浄した後は、酒造メーカーに納品し、酒が入れられ、再び消費者の元へ帰っていきます。洗う瓶の数が決まっているわけではなく、仕事が入ります。

武庫女大2・3年生

「鳴尾再発見」取材スタート

武庫女大の生活環境学部生活環境学科2年生・3年生有志は「鳴尾再発見プロジェクト」を先月から始めた。その取材のスタートは、大学の目の前にある「三箇鉢泉所」からとなったようだ。



三箇社長インタビューする学生たち



△cafe goofy



△カフェ まるまん

近年、焼酎ブームと減少傾向にある。それに伴い、洗浄する瓶も減ってきている。それに加え、近年空き瓶の再利用方法はリユース(瓶を洗浄して、そのまま再利用)よりもリサイクル(瓶を一度粉々に砕いて再利用)の方が主流になりつつある。

三箇鉢泉所の歴史
戦後、ラムネの卸売りを始める
S24 三箇鉢泉所 創業
飲料水(ラムネ、サイダー、アップルジュース)の製造
販売
S50 飲料水製造メーカーに依頼されて瓶の洗浄を始め、現在に至る
H19

◆日本の酒所・西宮を鳴尾で感じる
灘といえば、言わずと知れた酒の名産地。その土地柄ゆえに続くこの産業。昭和50年ごろまでは「鳴尾鉢泉所」という業者があったが、今ではこの鉢泉所を残すのみとなった。

旧大道筋(からす通)の路地に江戸の町並み出現

カフェが続々と誕生する旧大道筋。気をつけないと見落としてしまう路地がある。夜になれば、行燈から灯りがもれ、路地の風景とあいまって江戸情緒を見せている。住宅をリフォームしたものであるが、すっかり江戸時代からの歴史地区にふさわしい景観に溶け込んでいる。オーナーの手作りでこつこつと進められている。

江戸を意識した町並み出現



夜の路地 ▶

OGからの寄稿

カフェになっても百年の老舗の味 片岡由香

カフェまるまんなは、もともと十年間毎日歩いた通学路に面したところにあるお寿司屋さんでした。お店の前を通る度に寿司飯のにおいがして、そこにお寿司屋さんがあることにどこか安心感のようなものがありました。特に二月三日の節分になると、店先に机を出して巻き寿司を販売している光景が見られ、身近に季節感を感じていました。その思い出のお寿司屋さんは、新たにカフェへと変わり、昨年創業百年を迎えられたそうです。カフェに変わってからも、自分には巻き寿司を店先で販売しています。そこが地域のお寿司屋さんであったことを実感できる一日です。(平成十八年 生活環境学科卒)

武庫女と鳴尾をつなぐ地域情報誌

発行日(春号・秋号)
見本号編集長 里つかさ(生活環境学科4年)
編集次長 早田浩子 夏井あすみ(同学科3年)
編集 室田美樹(同学科3年)
編集・発行
武庫川女子大学生生活環境学部生活環境学科
都市デザイン第一研究室内
〒663-8558 西宮市池開町6-46
電話 0798-45-9882
E-mail miyakema@mukogawa-u.ac.jp
ご意見お待ちしております